

54 久留米工業大学

Kurume Institute of Technology

久留米工業大学フォーミュラプロジェクト

Kurume Institute of Technology Formula Project

<http://kit-fp.sakura.ne.jp/index.html>

未完の大器、来年度に向けて



今回の総合結果・部門賞

●総合 38位

Profile チーム紹介・今までの活動

久留米工業大学フォーミュラプロジェクトは車の3要素である走る・曲がる・止まる+αをもっと詳しく知ると同時に、将来の優秀なエンジニアを育成するため、ものづくりの楽しさを身をもって体験し、講義で学ぶ工学知識と合わせてより実践的な知識を身につけるために活動しております。

Team-member チームメンバー

山下 涼太 (CP)

東 大輔 (FA)、池田 秀 (FA)、梶山 項羽市 (FA)
杉野 太郎、原口 拓也、江口 拓弥、吉村 直也、
江中 佑治、佐藤 章成、田口 皓也、内藤 篤、
廣門 考壹、ベンカート・フレドリックサイトウ、
足立 優貴、大倉 隆史、宮原 誠

Presentation

プレゼンテーション

今年度車両F115の車両コンセプトは「Improvement in reliability」、車両の「走る・曲がる・止まる」の三要素に関する基本性能を高めて信頼性のあるマシンにする事を目標とする。前年度車両では、「曲がる」の要素に関してはスキッドパッドにてチーム歴代最高タイムを記録し、ドライバービリティの観点からも希望どりの性能を発揮してくれた。しかし、「走る・止まる」に関してはアクセレーションでチーム初の4秒台が出たとはいえ、低速回転速度域のトルクが小さいうえ、高速回転速度域のトルクの落ち込みが大きく、ブレーキも4輪ロックはするがリヤブレーキが効き過ぎているため、まだ改良の余地があると判断し、今年度は特にその2点の向上をめざした。また車両全体の信頼性の向上も目標とした。

今年度車両は、ターボチャージャーの変更を行ない、昨年度車両にて使用していたIHI製RHF-25から三菱製TD-02に変更した。また、過給気圧コントロールを行なうために、HKS製EVC6を採用した。これにより、出力55ps/6500rpm、トルク6.1kgf・m/6500rpmを達成することができた。

Participation report

参戦レポート

今年度は、チームの大半が1、2年生であり、知識・経験の少ないチーム体制で挑んだ大会でした。1日目はデザイン審査があり、結果としては39位でしたが、3面図など結果以外での収穫がありました。2日目から車検を受けることができ、これに並行してのコスト・プレゼンテーション審査がありました。車検では一発の合格をめざしましたが再車検となり、3日目に持ち越しとなりました。コスト・プレゼンテーション審査は多少のトラブルがありましたが、無事に終わることができました。3日目は午前中の車検クリアをめざしました。ブレーキ審査は1回目は駄目でしたが、2回目でクリアでき、無事に動的審査に進むことができました。アクセレーション・スキッドパッドでは、車両トラブルにて良い結果が出せませんでした。

4日目はエンデュランスがありました。まず、前日のトラブルの修正を行ないエンデュランスに向けての準備をして、午後より出走を行ないました。しかし、11周目に車両トラブルにて、リタイアしてしまいました。昨年度も車両トラブルにてリタイアしており、非常に悔しい結果となりました。来年度は、全審査完走をめざしていきます。

Sponsors スポンサーリスト

スズキ、NTN、VSN、和光ケミカル、B-Factory、上津レンタカー、久留米自動車学校、ソリッドワークスジャパン、たたみや、津留崎製作所、西嶋板金工業所、洲上溶接、ミスミ、ミヤコ自動車工業、モリタホールディングスモーターテクノロジー、ヤスナガ、レーシングサービスワタナベ、久留米工業大学教職員の皆様、久留米工業大学、Kit-fpOB会、F.C.C.、エンソン、東京R&D、住友電装、ものづくりセンター、加工プロジェクト、深井製作所

Team-Movie <http://www.jsae.or.jp/formula/jp/13th/movie/54.html>